

しぐぜいがん
四弘誓願

■楽曲データ

歌詞：仏典

楽曲：小松清 作曲

初演：—

初出：『佛教聖歌 第五回発表』佛教音楽協會 1933年

管理番号：M658

■創作の経緯

仏教音楽協会より「仏教聖歌」として発表（第5回）。

■校訂報告

校訂譜：『聖歌・讃歌集』第1巻収録

底資料：『佛教聖歌 第五回発表』佛教音楽協會 1933年

比較資料：『佛教聖歌 縮刷第一輯』佛教音楽協會 1938年

校訂の詳細：特記事項なし

■解説

◆歌詞について

四弘誓願とは、あらゆる仏・菩薩がおこす四つの誓いをいいます。

一、衆生無辺誓願度 数かぎりないすべての人びとをすくい、さとりの世界へ渡そう

二、煩惱無数誓願断 煩惱は無数であるが、これを必ず断ってしまおう

三、法門無尽誓願学 尽きることのない仏法の深いみ教えを、学びつくそう

四、仏道無上誓願成 この上もないさとりを、必ず成就していこう

◆曲について

この曲は、漢文に作曲された数少ない曲のひとつです。

作曲の小松清（1899～1975）は、秋田県生まれ。日本の合唱コンクールの創始者であり作曲・評論に活躍した小松耕輔の弟で、東京大学を卒業し、東京音楽学校（現・東京藝術大学）選科を修了しています。作曲家、フランス文学者、音楽評論家でもあります。仏教讃歌では、ほかに《報恩講》《朝のよろこ

び》などがあります。また、西洋音楽と日本音楽との橋渡しや、日本音楽のあるべき姿を追求した音楽家でした。この《四弘誓願》にも、その努力のあとがみられます。

曲は、ゆったりとしたテンポの前奏に導かれ、荘厳な雰囲気を保って始まります。和音の重なりが、深い宗教的心情を表現しているようです。

◆歌い方

- ①何回も和音をよく聞き、その和音にとけ込むような発声を心がけましょう。
- ②四分音符=76で、「静かに」と指示されています。詞のもつ深い意味をよく味わい、決然とした心意気で歌うことが大切です。
- ③7小節目の二分音符「せい」は、付点四分音符+八分音符のようなりズムで、ごつごつせずにやわらかく歌うことを心がけましょう。
- ④17小節目の出だしは、低い音ですが、あまり押しえつけないように、のどをよく開いて歌いましょう。
- ⑤21小節目からは、全体に決然とした歌い方で、幅広く、豊かに、仏さまの慈悲の世界につながっていく心をもって歌っていただきたいものです。

◆用途

開扉や閉扉、入堂、献灯・献華などに、よく用いられます。伴奏のみをBGMとして使用することもできます。

解説執筆：大分哲照（御堂演奏会指揮者 福岡教区西嘉穂組明圓寺住職）

※本解説は、「メロディーの宝石箱」No.10（仏教婦人会総連盟機関誌『めぐみ』第135号収録）を加筆・修正の上、転載。

Copyright: Jodo Shinshu Hongwanji-ha Research Institute. All Rights Reserved.